人形アニメーションをつくる

人形アニメーション作家・監督　八代 健志（昭和63卒）

やしろ・たけし／1993年東京藝術大学卒業後、CM制作会社 太陽企画㈱に入社。現在は同社内にアニメーション制作スタジオ「テカラ」を立ち上げ、短編映画のほか広告でのアニメーションなどを手掛けている。初期の短編「ノーマン ザ スノーマン」は雪のない東京から秋田の雪を懐かしんだ学生時代の記憶が発想の原点。

人形を使ったストップモーションアニメーションを作っています。「コマ撮り」とも呼ばれ、人形などを数ミリずつ動かしながらたくさんの静止画を撮影し、それを連続して再生することによって動画として見せるアニメーション技法です。今年、秋田県芸術選奨をいただいた「劇場版ごん」という作品もこの技法で作りました。

元々は実写を中心にテレビCMのディレクターをしていました。10年ほど前、一本の自主制作アニメーションを作りました。それを礎にしてストップモーションアニメーションに転向し、現在、短編映画やコマーシャルで、監督、人形制作、美術、アニメーターをやっています。

ストップモーションをはじめたのは40歳を過ぎた頃。それなりに年を取り、素直に自分の好きと嫌いが分かってきた頃でした。キャリアも積んで楽しく仕事をしていましたが、その一方で、モノを作る人間は純粋なようでいて自己顕示欲も隠せないもので、、僕も例にもれません。実はスターを目指していたのに、思い描いていたほどスターになれてないな～なんてことも思っていました。周りを見渡せば、僕が作りたいものを僕より上手に作るヤツも現れ、しかもそれが本当に良かったりもする嫉妬。好き嫌いにかかわらず、得意と不得意がある残酷さも突きつけられていました。

実写の撮影ではスピード感あるコミュニケーション能力がものを言います。僕はどちらかというと人とのコミュニケーションが苦手でした。逆に、ゆっくりじっくりできる時間さえ稼げば、自分の手でなんでも作る！という自信がありました。仕事として作るなら、自分のほうが他の誰よりいいものを残せる土俵で勝負したい。そう思ってかじを切った先がストップモーションアニメーション。ちょっと遅めの土俵入りでした。

さて、現在、ストップモーションは3DCGに押され少数派。単に動かすだけなら3DCGより手間がかかる。今この時代に、あえてストップモーションを作るには、この表現でなければ出せない魅力をしっかりと自覚する必要があります。

ストップモーションの魅力は見た人が「どうやって作ったか分かる」ことではないかと思っています。人形は作り物であることを隠さず、むしろ人形だと主張するほうがいい。見る人も、作りものだと了承の上で物語に感情移入することを楽しむ。黒子のように、暗黙の了解のもと舞台裏をバラす。決してバレちゃった、ではない礼儀正しいバラし。それこそストップモーションの魅力だと思っています。

短編映画は一般の方々に見てもらうチャンスが限られていましたが、この数年は映画祭での受賞が相次ぎ、知名度も上がり、現在はユーネクスト、WOWOWをはじめとした配信各社から、いつでも作品をご覧いただけるようになりました。「八代健志　作品」で検索していただき、同窓の皆さんにも見ていただけるとうれしいです。どの作品も子供も一緒に楽しめる作品となっております。

『劇場版ごん GON, THE LITTLE FOX』は新美南吉「ごんぎつね」が原作。木彫人形と里山の風景描写に注力した28分。国内外で高い評価を得た。

『プックラポッタと森の時間』でアニメーションしている様子。屋外でのコマドリに挑戦した。権威あるアニメーション賞「大藤信郎賞」を受賞した実験的な16分。